

# 1 研究の概要

## (1) 研究テーマ

高等学校家庭科における思考力・判断力・表現力を高めるための授業づくり  
一言語活動の充実と I C T の利用を通して―

## (2) 研究テーマ設定の趣旨

### ○思考力・判断力・表現力の育成が求められる背景

少子高齢化、グローバル化、高度情報化と急速な社会の変化に対応する力を育成する観点から、思考力・判断力・表現力の育成が重要な課題の一つになっています。P I S A 調査や学習状況調査等の結果から、日本の児童・生徒には、習得した知識・技能を活用して考え、判断・表現する力や主体的に学習に取り組む態度に課題があると分析されており、本県においても同様の報告がされています。思考力・判断力・表現力の育成に関しては、これまでも求められてきたところですが、まだ十分とはいえないのが現状です。今後、必要になるのは、社会に参加する中で知識・技能を様々な生かす力、すなわち実生活に結び付く思考力・判断力・表現力の育成です。そのためには、学習意欲を喚起し、実生活とつながりのある言語活動を通して、児童・生徒が意欲的に思考や判断、表現をして、課題を解決する過程が重要になります。課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力や多様な観点から考察する能力などの育成・習得が求められているともいえます。

### ○家庭科における思考力・判断力・表現力

家庭科における思考力・判断力・表現力は、生徒が実際の生活場面から家庭や地域の課題を見だし、その課題解決を目指して、実践的・体験的な学習活動に主体的に取り組み、自らの家庭生活をより良くしようと思いを深め、適切に判断し工夫し創造する能力のことをいいます。このような能力は、家庭生活の様々な事象の原理・原則を科学的に理解する学習活動や、それらに関わる知識と技術を実際の生活上の意思決定や問題解決につなげる学習により育まれます。

高等学校家庭科では「主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度」の育成を目標としています。特に「生活を創造する能力」には思考力・判断力・表現力が不可欠です。目標実現のためにも、これまで行ってきた学習活動をさらに充実させ、思考力・判断力・表現力を育むための指導の工夫が必要であるといえます。

### ○思考力・判断力・表現力を育成する学習活動の充実

思考力・判断力・表現力の育成には、情報を分析・評価し、論述することや、課題について構想を立て実践し、評価、改善すること、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることなどの活動を充実させることが効果的であるとされています。

高等学校家庭科においても、学習指導要領解説各科目内容の取扱いに当たっての配慮事項に、問題解決的な学習を一層充実させること、生徒の思考力・判断力・表現力を育む観点から、他者と関わる力を高める活動や生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動などを充実することと示されています。また、次期学習指導要領改訂に向けて注目されているアクティブ・ラーニングは、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習方法であり、他者と関わる活動や問題解決的な学習を行っている家庭科において、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた学習を行うことは意義のあることだと考えます。

### ○本研究の目的

このようなことから、本研究では、アクティブ・ラーニングの手法の一つである「知識構成型ジグソー法」を取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを目指すことにしました。また、情報収集、グループ討議、意見の共有場面において、ICTを利用することで、生徒の興味・関心や主体性が高まり、授業展開もスムーズになると考え、研究を進めました。

## (3) 研究の方法と内容

### ○アクティブ・ラーニングの手法に関する研究

先行研究や実践事例をもとに、アクティブ・ラーニングの手法に関する研究を行い、高等学校家庭科で行われている学習方法との関連性をまとめます。

### ○授業における効果的なICT活用に関する理論研究

家庭科の各分野、学習形態におけるICT活用に関する研究を行い、効果的な活用方法について提案します。

### ○授業実践を通じた、効果的な学習指導の検証

アクティブ・ラーニングの手法の一つである「知識構成型ジグソー法」の実践を通して、生徒の主体的な学びを促す学習指導とICT活用の有効性を検証する。また、ワークシートやアンケート調査の結果から、思考力・判断力・表現力の高まりを検証し、家庭科におけるアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくりについて提案します。